



森づくりサポーターニュース

平成27年(2015年) 12月25日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
 メールアドレス biwako@moridukuri.info URL <http://www.moridukuri.info>

“生きものとの共存”を目指して



前号では「里山を目指して、育樹活動を推進」していることについて紹介しました。

この森をつくるコンセプト(基本理念)の一つは、「昆虫や野鳥など様々な生きものが共存できる豊かな森(ビオトープ)の創造」です。平成13年(2001年)に、「つどいのゾーン」からスタートした森づくりは、「ふれあいゾーン」、「出会いのゾーン」と県民の皆様と共に進め、25年の「里の森ゾーン」を最後に植え終わりました。最初に植えた苗木は、14年を経て樹齢16年になり、樹高が12mを超えたものも出てきました。また、今年度から開設した「ふるさとゾーン」では、クヌギやエノキなどの大木群が混在する竹藪を整備して、中に園路をつくっています。

樹林の中の土壌は少しずつ腐葉土が増し、間伐や調査で樹下を歩くと場所によっては足に心地よく感じられるようになっていきます。実のなる木もあちこちに植えられ、鳥たちも増えています。在来種として選定し植樹した90種類の木々はそれぞれに生長し、早く植えたところから少しずつ森らしくなってきました(写真参照)。

びわこ地球市民の森では、現在どの程度の豊かな森かを知るために、昨年から専門家に委託して「生物調査」を進めています。今年度は「鳥類」と「哺乳類」の調査を進めていますが、鳥類ではチョウゲンボウ、ミサゴなどの猛禽類やノビタキ、センダイムシクイなどの秋の渡りの小鳥類が確認されたようです。哺乳類では、調査のためにカメラを設置しました(写真参照)。当初からキツネやタヌキ、キジなどは確認されています。ハクビシンやヌートリアなどの外来種がいるかもしれません。不安な部分もありますが、まとめは今年度末になります。本号では、昨年度に調査し、まとめていただいた「水生生物調査」を紹介します。動植物とも外来種を第一義に調査しました。在来種と合わせて水域の生物から、びわこ地球市民の森の現在の状況を知っていただきましょう。



自動撮影装置(カメラ)設置



森らくなったふれあいゾーン



水路と出会いのゾーンの眺め(左手前方は、三上山)

びわこ地球市民の森「生物調査」について

県営都市公園「びわこ地球市民の森」は、平成12年度から、旧野洲川南流を活用して自然再生事業に取り組んでいます。しかし、廃川跡地内では、砂利採取事業にともなう河畔林の消失、水路等への外来生物種の侵入などの状況が見られます。

今後、植樹から育樹へと、自然豊かな森づくりを進め、利活用を図っていくうえで、現時点での生物状況について十分に把握しておく必要があります。平成26年度から、専門家に委託し、公園区域内の総合的な生物調査に着手しています。

以下は、生物調査の実施計画と、平成26年度調査結果に見られた特徴的な事項です。

表1. 確認した群落および生育面積

在来植物群落	生育形	生育面積(m ²)
ヤナギ群落	湿性木本	692
クス群落		137
オキ群落		1,054
ヨシ群落	多年生	8,531
ヒメガマ群落	抽水	2,144
ウキヤガラ群落		1,477
シロバナサクラタビ群落		602
マコモ群落		57
ミゾハ群落	1年生	662
外来植物群落	生育形	生育面積(m ²)
セイヨウアダチソウ群落	多年生	2,431
チコスズメヒエ群落	抽水	1,110
アメリカセンダングサ群落	1年生	5
オオアサザ群落	多年生	80
アマゾンチドメグサ群落	浮葉	17
<i>Azolla</i> sp. community	1年生	3,152
在来植物群落の合計		15,356
外来植物群落の合計		6,795
合計		22,151

「生物調査計画」

調査期間は、平成26年度～28年度の3年度間、下記の調査内容を予定しています。

平成26年度: 水域(水路内)の外来生物調査(水生植物、魚類・両生類・爬虫類)

// **27年度**: 鳥類・哺乳類調査(全域)

// **28年度**: 植生調査(全域)、調査データの整理・考察等

「平成26年度調査結果」

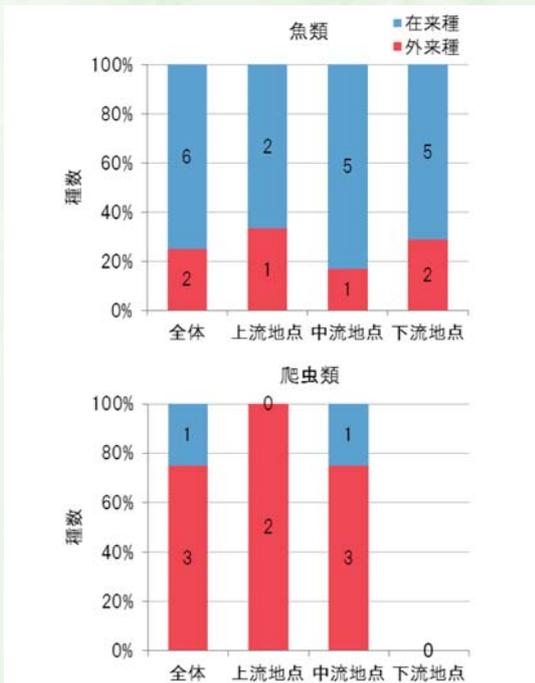
(水生植物)

調査対象地(水路、約2.0km間)内の全群落面積は26,474m²、確認15群落のうち6群落は外来植物(表-1)でした。在来種のヨシ群落等は安定に遷移すると考えられますが、アゾラ(*Azolla* sp. community)等の外来種の拡大・定着が懸念される状況にあります。

(水生生物)

上・中・下流の3地点の調査で、外来生物(ブルーギル、ウシガエル等)の侵入が見られますが、近年減少しているゲンゴロウブナやミナミメダカなど、在来種の生息も確認されました。興味深いことに、在来種と外来種の割合は分類群によって逆になっていて(魚類、爬虫类等、図-1)、個体数でも同様でした。

図1. 魚類、爬虫類の種数における在来種と外来種の割合



アゾラ (*Azolla* sp. community)

秋の森づくり サポーター活動

秋晴れに恵まれた10月25日(日)、72名の参加者のもと第3回森づくりサポーター活動が開催されました。

参加者は、森づくりセンターを出発し、ふれあいゾーンでドングリ拾いを楽しんだ後、つどいのゾーンで3mほどに育った森の混み合った木々を間引く間伐作業を行いました。ガールスカウトの子供たちは、自然教室「森の秋をみつけよう」をテーマに、森のなかからドングリやキノコなどの秋をみつけるビンゴゲームを楽しみました。

その後、つどいのゾーンに隣接する今浜自治会主催の「コスモス鑑賞会」に参加者全員が招待され、地元のみなさんが愛情込めて育てたコスモスの花畑を見学した後、お昼には豚汁をごちそうになり、楽しい秋の1日となりました。



開会式



大人の間伐作業



ガールスカウトの自然教室



今浜自治会のコスモス畑

新しい「森づくりサポーター」団体の紹介

今年10月に、新しい「森づくりサポーター」の団体が誕生しました。名称は「レイカ36会」で、滋賀県レイカディア大学草津校園芸学科36期生の卒業生26名で構成され、今後、定期的に森づくり活動や「ふるさとゾーン」に残る竹やぶの管理・利活用に取り組まれる予定です。

「森づくりサポーター」の団体登録も11団体となりました。



活動についての打合せ



竹やぶ(ふるさとゾーン)の視察

お知らせ

第4回 森づくりサポーター活動のご案内

早春の森が、みなさんのお越しをお待ちしています。

- 開催期日** 2016年3月5日(土)
開催場所 びわこ地球市民の森(ふれあいゾーン)
活動内容 森の手入れ、自然学習、シイタケの菌打ちなど



編集後記

暖冬との予報ですが、「比良おろし」に耐えて、四季桜が可憐な花をつけています。森づくりサポーターの皆様には、良いお年を迎えられ、春からの育樹活動に一層の取り組みをお願いいたします。

森のデータ

植樹面積	80,808 ㎡
植樹活動参加者数	45,994 人
植樹本数	160,967 本
森づくり活動参加者数 (平成26年度)	10,382 人
内、サポーター活動 参加者数(平成26年度)	3,552 人